

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393900026		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	グループホーム清和		
所在地	岡山県加賀郡吉備中央町西1682-3		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岡山県の中央に位置し吉備高原と呼ばれる高原地帯であり緑あふれる自然豊かな環境に恵まれている。ホームの庭には花壇や畑があり花や野菜を育てたり庭の手入れを一緒に行っている。また庭では犬を飼っており、常に動物と楽しく触れ合える。神楽や踊り、絵手紙教室など地域ボランティアを招き地域との繋がりを大切にしている。他にも四季折々の行事を通して生活に彩りを添えるよう初詣から始まりお花見、ソーメン流し、運動会など嗜好をこらし楽しんで頂けるように努めている。買い物やドライブ、遠足など日頃から外出の機会を持つようにしている。毎日入浴して頂けるよう環境を整えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成26年12月1日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域は過疎化が急速に進み社会資源も少ない環境の中、協力体制に取り組み地域の小中学校並びに高校との連携をはじめ地域の消防団や自治会と強いつながりを持っています。また地域のボランティアの方ともいい関係ができています。去年ユニット独自の理念を更新して目指す目標を分かりやすくし、現状に合ったイメージを持って日々支援に取り組んでいます。職員の連携もよく、お互いが目配り・気配りをして利用者との良い関係ができており、自然な感じでの「家庭の延長」の実現に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議で理念に基づく目標を決め、毎朝目標を復唱し実践に繋がっている。	職員会議で理念の意義をふまえて共通する課題を話し合い目標に掲げて日々実践に繋がっています。	これからも日々理念に立ち戻り目標の実践に繋がっていかれる事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園や施設に出掛けたり交流したり、買い物も出来る限り近隣に行くようにしている。民生委員のボランティアさんの訪問も定着している。	中学生の職場体験、中・高校生のボランティア、料理クラブの方などの訪問、又小学校の発表会、地域の文化祭に参加するなど、地域の一員としての交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターの取り組みに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第4金曜日に開催する運営推進会議には出来るだけ多くの利用者、職員の参加を促し意見が言えるようにしている。会議での意見は全職員に伝えサービス向上に活かしている。	ユニットの共有空間で会議を行っており、基本職員並びに利用者全員参加になっています。家族も年度始めに参加する日程を決めており報告や話し合いを行いサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回町の介護保険担当者や巡査派出所の方に参加していただき、日頃の活動や困っていること、これからの課題などを積極的に伝えることで協力関係を築くように取り組んでいる。	認知症家族の会からの要請があり、行政から講師を依頼されるなど協力関係に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は防犯として夜間のみとし、施設内研修を行い施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	一人ひとりの行動や思いの把握に努め、身体拘束をしない支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で高齢者虐待防止関連法について学び、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修は行っているが、そのような事例はなく活用、支援の経験はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、御本人と御家族様一緒に説明し理解納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では利用者様や御家族様にも意見・要望を聞かせていただいている。意見や要望があった時は職員会議で全体に伝え運営に反映させている。	家族の訪問時利用者の様子など話し意見や要望を聞いて一人ひとりその人にあつた支援に努めています。又、運営推進会議などで話し合い意見を反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催し意見等話し合い意思疎通を図っている。管理者は意見や提案を施設長に報告し反映させている。	職員会議のほか直接施設長と職員が話す機会もあり意見や要望を取り入れた現場運営に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう職場の環境・条件の整備は出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに、職員一人ひとりの研修予定を作成し実施している。また復命発表を行い全体のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に法人内のグループホームが集まり勉強会を行い職員の質、またはサービスの質を向上させていく取り組みをしている。また町内のグループホームとの交流も出来つつある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の意思を尊重しながら、面接で得た情報を元にプランを作成、職員のケアを統一し御本人が不安や混乱に陥らないような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接などで、ここに至るまでの経緯や困っていること等よくお聞きしホームでの対応や生活について丁寧に説明することで安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込の段階、入居前の段階で状況や困っていることなどをお聞きし、必要であれば他のサービスの選択もできるような情報提供しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力により家事参加していただき感謝されたり感謝したりする場面をつくることで居場所と役割を実感していただき暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には毎月一ヶ月分の介護経過記録をお送りすることで日々の様子を知って頂き来訪の際には直接情報交換し共に御本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた店や美容院など利用できるよう同行したり、地域の行事やお祭りなどに参加できる機会をつくり馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	日常生活での継続と地域での行事への参加など関係作りにも努めています。今年初めて地元の大きな祭りに参加し馴染みの人に出会い関係の継続へつながっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクの時間を設け自然に同じ時間を過ごせるよう家事参加を通して利用者同士の関わりが持てるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談や支援に努めているとまでは言えないが、次に行かれた施設を訪問したりして今までの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人からの聞き取りや日常生活の中で発せられるサインをキャッチし希望や意向の把握に努めている。	日常の接遇の中、細かい声掛けで積極的に自分らしい暮らし方が表現できるように本人本位に検討し支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族からの聞き取りや、了承の上で以前利用していた事業所からも情報をいただき経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日利用者様各人の介護経過を時系列で記録し、職員間で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で計画・モニタリングを行い、ご本人の思いを大切にしながら、ご家族・主治医・看護師に相談、助言を頂き介護計画の作成にを行っている。	家族が面会に来た時に介護計画の説明を行っています。関係者とカンファレンスを行い現状に即した介護計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様に寄り添うことで、小さな気づきを見逃さないようにし、記録し職員間で情報を共有ながら介護計画の作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外の受診は、ご家族に協力して頂いているが、日々の生活を知っている者の付き添いが良い場合、緊急性の高い場合は職員が対応するなど、柔軟に対応しサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館へ出掛けたり、地域の催し物等外出の機会を増やし、生活に潤いが持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院への受診付き添いを行い、医師に正確に利用者様の状況をお伝えしている。結果は、ご家族に報告しご家族の思いもお聞きしながら医療を受けられるよう支援している。	地域の過疎化が進み医療機関が減ってきており往診が難しい現状です。地域のかかりつけ医への受診(職員が付き添う)、総合病院や専門医の受診(家族の協力)など適切な医療を受けられる様支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師や同法人隣接施設の看護師に相談し、アドバイス頂いたり協力していただいたりして、適切な受診が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院には入院設備があり、利用者様各人の状況は把握して頂いている為、迅速かつスムーズな対応がとって頂ける様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に向けたご家族との話し合いは、早くから進めており、病院側も協力体制である。しかし町内に社会資源が乏しく、終末期ケアは現状では難しい。	地域の医療機関が減り続ける中、往診ならびに訪問看護を行う機関が無く、看取りは難しい状況です。しかし、職員は重度化に向けてケースごとの対応や緊急時の対応、救急搬送、一次救命処置などの研修は常に行っています。	これからも全職員が現状を認識しながら「意識」を持ち続け自己研鑽を続けられる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル(日中・夜間)を作成、勉強会を行い実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を重ねたり、訓練の時間帯や方法を変えることにより、スキルアップをはかっている。また地元消防団との連携が整っている。	火災避難訓練を定期的に行いスキルアップを図っています。今後は火災以外の災害時の避難訓練を行いマニュアル化していく予定です。	地震など天災害による対応(避難)のマニュアルを運営推進会議等で検討し、地域の方との協力を得ながら作成に取り組まれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月間目標に何度も言葉遣いや声のトーンについて取り上げ、利用者様一人ひとりの人格を尊重した声掛けや対応に心がけている。またその都度自分の言動を振り返るようにしている。	離れた場所から利用者に声を掛けることが無いよう本人のそばで声掛けするよう心掛けています。又、プライバシーを損なわない対応に気を付けながら支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望が言いやすい環境や雰囲気作りを心がけ、その思いが叶えられる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら、日課がスムーズにこなせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣料やクリーム、お化粧品などの購入の代行や希望時は買い物付き添いを行いおしゃれや身だしなみが出来る環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お米洗いやおかずの盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、食器拭きなど食事に関わることを個々の能力に応じて楽しんで参加して頂いている。	日常は食材宅配サービスを利用しています。誕生日会や季節ごとのイベントを行う時のメニューは、事業所で利用者と一緒に考え準備をし、楽しい食事の提供に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の食事摂取量、水分量は毎食後チェック表に記入し把握している。食事形態も嚥下や咀嚼状態を見ながら提供し、元々の食事量や嗜好も考慮し調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に応じ、毎食後の介助や声掛けを行っている。必要な方は定期的な歯科受診の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め声かけのタイミングを工夫し自立にむけた支援を行っている。	自立に向け一人ひとりの状況に合わせたトイレでの排泄支援に努めています。比較的便が緩い利用者は主治医に相談しながら薬を調整し不快感や羞恥心の軽減に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事、こまめな水分補給、摂取量のチェック、毎日の散歩や体操などにより便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	年間を通じて毎日入浴できる環境を整えている。体調により入浴出来ない方や気が向かない方は状況に応じて更衣、清拭などで対応し個々にそった支援をしている。	毎日入浴しています。皮膚の乾燥を防ぐためにシャンプーやボディーソープの使用に気を付けています。入浴拒否の方には本人のタイミングに合わせた入浴を心掛け支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン交換・布団干し・ルームケア等環境を整え安心して気持ちよく眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬はそれぞれの記録にファイルし副作用等についても確認ができるようにしている。体調の変化は記録に残し様子の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加、工作、塗り絵、または庭の手入れや掃き掃除、またはドライブなど一人ひとりの力や好みに合わせた方法で気分転換出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩から始まり、気分転換のドライブ、行楽外出など出来る限りの外出の支援をしている。必要な時には御家族に連絡をいれ協力して頂いている。	日々散歩などの外出や遠出の外出支援も行っています。利用者・職員・ボランティアの方でフェリーに乗ってみかん狩りに行ったり、家族の協力で演歌歌手のコンサートに行くなど様々な外出支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方については、ご自分で管理されており、外出時には買い物を楽しむ方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の際はホームの電話でお話して頂いている。レクリエーションでご家族に手紙やはがきを出し喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々で玄関・食堂を飾ったり季節にあった創作活動をし、作品を飾るなど温かみのある空間作りに努めている。また手作りの家具などを配置して心地よい空間を作り居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	利用者の作った貼り絵やパッチワークを飾って季節感を取り入れたり、手作りの家具を置き心地よく過ごせる様工夫しています。又、現在手作りのベンチ制作を予定しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で座られるソファや畳スペース、ここに決まったテーブル席など共有スペースであっても思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から使い慣れた家具を持ち組んで頂いており、ご自分の作品や写真など思い思いの物で部屋を飾っておられる。また、御主人の位牌や写真を持ち込まれている方もおられる。	利用者一人ひとりが思い思いに写真を貼ったり、編み物が好きな方は作品を飾ったり、パッチワークを飾ったりして部屋の模様替えを行っています。また演歌歌手のポスターを張っている利用者の居室もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全て段差のないバリアフリー建築になっており、車椅子であっても生活できるよう設計されている。またそれぞれの部屋の前に手作りの表札を掛けたりトイレにはトイレマークでわかりやすく工夫している。		